

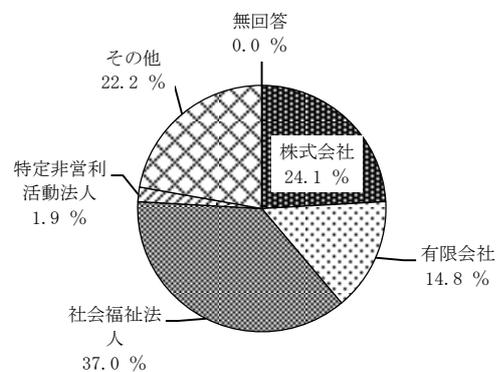
### Ⅲ. 居宅介護支援事業所のアンケート調査結果

#### 1. 事業所概要

##### (1) 法人種別(SA)

法人種別について、最も多いのは「社会福祉法人」(37.0%)次いで「株式会社」(24.1%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	株式会社	13	24.1
2	有限会社	8	14.8
3	社会福祉法人	20	37.0
4	特定非営利活動法人	1	1.9
5	その他	12	22.2
	無回答	-	-
	全体	54	100.0



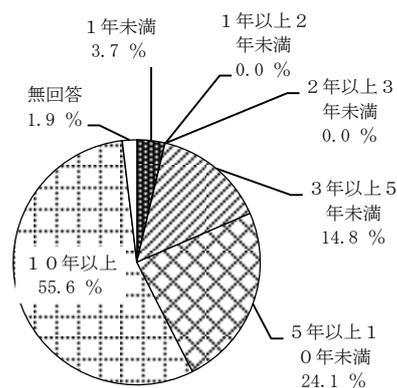
##### その他(自由記述)

- ・ 医療法人 6件
- ・ 合資会社 2件
- ・ 行政直営 2件
- ・ 公益社団法人 1件

##### (2) 居宅介護支援事業所の実施年数(平成27年1月末現在)(SA)

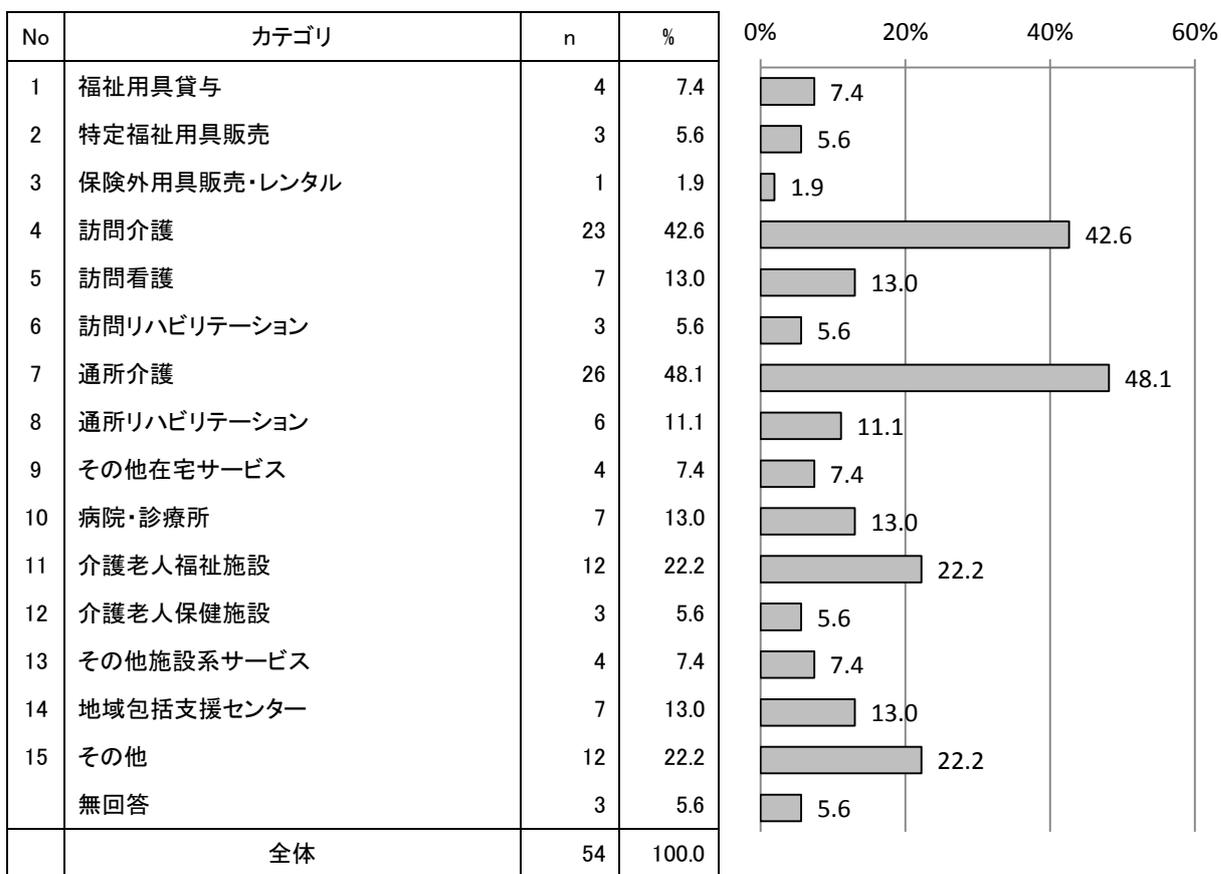
居宅介護支援事業所の実施年数について、最も多いのは「10年以上」(55.6%)、次いで「5年以上10年未満」(24.1%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	1年未満	2	3.7
2	1年以上2年未満	-	-
3	2年以上3年未満	-	-
4	3年以上5年未満	8	14.8
5	5年以上10年未満	13	24.1
6	10年以上	30	55.6
	無回答	1	1.9
	全体	54	100.0



(3) 貴事業所の併設サービス(MA)

居宅介護支援事業所の併設サービスについて、最も多いのは「通所介護」(48.1%)、次いで「訪問介護」(42.6%)であった。



その他(自由記述)

- ・ 短期入所生活介護 2 件
- ・ 在宅介護支援センター 2 件
- ・ 認知症対応型通所介護 2 件
- ・ 小規模多機能型居宅介護 1 件
- ・ 小規模多機能型居宅介護、グループホーム、サ高住 1 件
- ・ 住宅型有料老人ホーム・グループホーム 1 件
- ・ 介護療養型医療施設 1 件
- ・ 地域福祉センター 1 件
- ・ 訪問入浴 1 件

(4) 貴事業所の従業員数(実数)

従業員数について、常勤は平均 6.3 人、非常勤は平均 2.8 人であった。そのうち「ケアマネジャー」は常勤が平均 2.6 人、非常勤が平均 0.5 人であった。

従業員(常勤)

合計	341
平均	6.3
分散(n-1)	155.70
標準偏差	12.48
最大値	70
最小値	0
無回答	0
全体	54

従業員(非常勤)

合計	153
平均	2.8
分散(n-1)	37.73
標準偏差	6.14
最大値	28
最小値	0
無回答	0
全体	54

従業員(常勤換算)

合計	240
平均	4.4
分散(n-1)	127.25
標準偏差	11.28
最大値	69
最小値	0
無回答	0
全体	54

うちケアマネジャー(常勤)

合計	139
平均	2.6
分散(n-1)	5.02
標準偏差	2.24
最大値	12
最小値	0
無回答	0
全体	54

うちケアマネジャー(非常勤)

合計	25
平均	0.5
分散(n-1)	1.03
標準偏差	1.01
最大値	5
最小値	0
無回答	0
全体	54

うちケアマネジャー(常勤換算)

合計	87
平均	1.6
分散(n-1)	5.42
標準偏差	2.33
最大値	10
最小値	0
無回答	0
全体	54

(5) 貴事業所における平成 25 年度1年間のケアプラン作成数(実数)

1 事業所当たりにおける 1 年間のケアプラン作成数は、平均 617.3 件であった。

そのうち、福祉用具に関わる件数は平均 270.7 件、住宅改修に関わる件数は平均 6.9 件であった。

住宅改修のみの「理由書」の作成枚数は、平均 2.1 枚であった。

ケアプラン作成数

合計	28,396
平均	617.3
分散(n-1)	866,286.60
標準偏差	930.75
最大値	4,955
最小値	0
無回答	8
全体	54

うち福祉用具に関わる件数

合計	11,641
平均	270.7
分散(n-1)	163,013.46
標準偏差	403.75
最大値	1,934
最小値	0
無回答	11
全体	54

うち住宅改修に関わる件数

合計	274
平均	6.9
分散(n-1)	67.38
標準偏差	8.21
最大値	37
最小値	0
無回答	14
全体	54

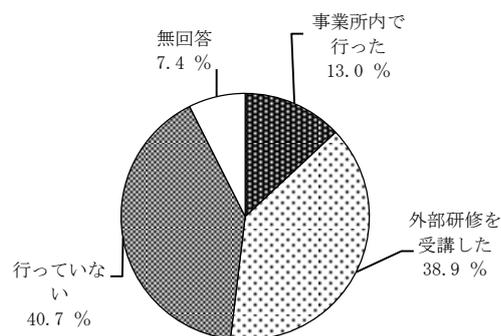
住宅改修のみの「理由書」作成枚数

合計	86
平均	2.1
分散(n-1)	18.38
標準偏差	4.29
最大値	25
最小値	0
無回答	12
全体	54

(6) 平成 24 年度以降の福祉用具貸与・販売に関する研修実施の有無(SA)

福祉用具貸与・販売に関する研修実施状況について、最も多いのは「行っていない」(40.7%)、次いで「外部研修を受講した」(38.9%)、「事業所内で行った」、(13.0%)であった。

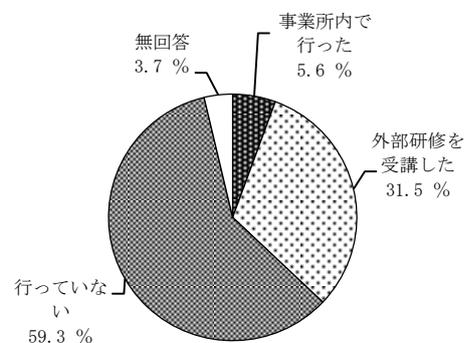
No	カテゴリ	n	%
1	事業所内で行った	7	13.0
2	外部研修を受講した	21	38.9
3	行っていない	22	40.7
	無回答	4	7.4
	全体	54	100.0



(7) 平成 24 年度以降の住宅改修に関する研修実施の有無(SA)

住宅改修に関する研修実施状況について、最も多いのは「行っていない」(59.3%)、次いで「外部研修を受講した」(31.5%)、「事業所内で行った」、(5.6%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	事業所内で行った	3	5.6
2	外部研修を受講した	17	31.5
3	行っていない	32	59.3
	無回答	2	3.7
	全体	54	100.0

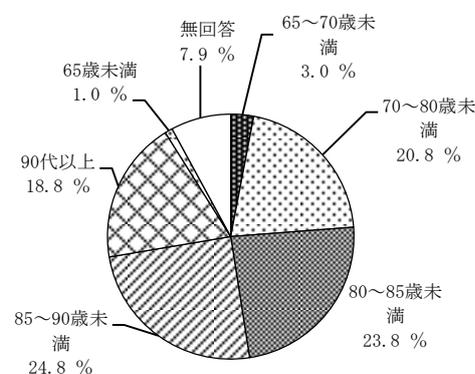


2. 本事例の対象者について伺います。福祉用具あるいは住宅改修導入直前の時点における状況で記載してください。

(1) 年齢(実数)

事例対象者の年齢について、最も多いのは「85～90 歳未満」(24.8%)、次いで「80～85 歳未満」(23.8%)、「70～80 歳未満」(20.8%)であった。

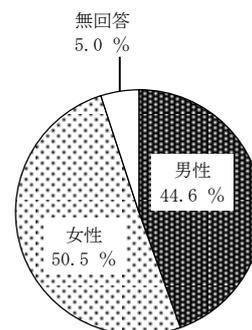
No	カテゴリ	n	%
1	65～70 歳未満	3	3.0
2	70～80 歳未満	21	20.8
3	80～85 歳未満	24	23.8
4	85～90 歳未満	25	24.8
5	90 代以上	19	18.8
6	65 歳未満	1	1.0
	無回答	8	7.9
	全体	101	100.0



(2) 性別(SA)

性別は、「男性」(44.6%)、「女性」(50.5%)であった。

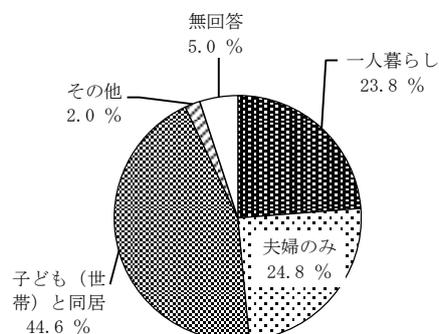
No	カテゴリ	n	%
1	男性	45	44.6
2	女性	51	50.5
	無回答	5	5.0
	全体	101	100.0



(3) 世帯構成(SA)

世帯構成について、最も多いのは「子ども(世帯)と同居」(44.6%)、次いで「夫婦のみ」(24.8%)、「一人暮らし」(23.8%)であった。

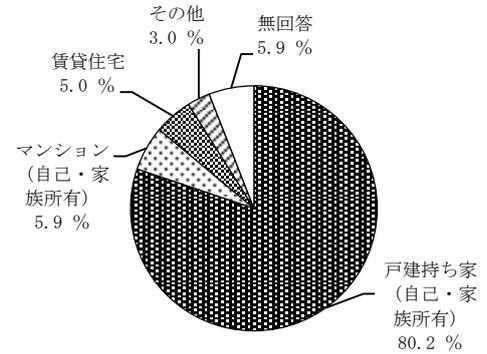
No	カテゴリ	n	%
1	一人暮らし	24	23.8
2	夫婦のみ	25	24.8
3	子ども(世帯)と同居	45	44.6
4	その他	2	2.0
	無回答	5	5.0
	全体	101	100.0



(4) 居住環境 (SA)

居住環境について、最も多いのは「戸建持ち家(自己・家族所有)」(80.2%)、次いで「マンション(自己・家族所有)」(5.9%)、「賃貸住宅」(5.0%)であった。「その他」は、「高齢者住宅」「有料老人ホーム」であった。

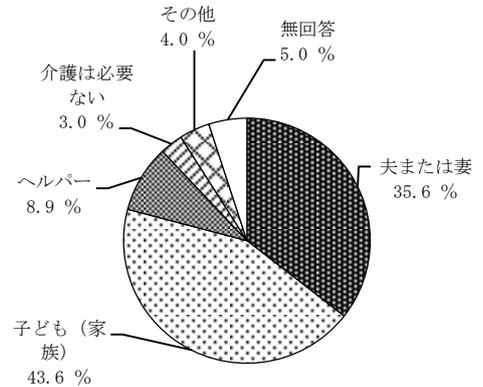
No	カテゴリ	n	%
1	戸建持ち家(自己・家族所有)	81	80.2
2	マンション(自己・家族所有)	6	5.9
3	賃貸住宅	5	5.0
4	その他	3	3.0
	無回答	6	5.9
	全体	101	100.0



(5) 主な介護者 (SA)

主な介護者について、最も多いのは「子ども(家族)」(43.6%)、次いで「夫または妻」(35.6%)、「ヘルパー」(8.9%)であった。

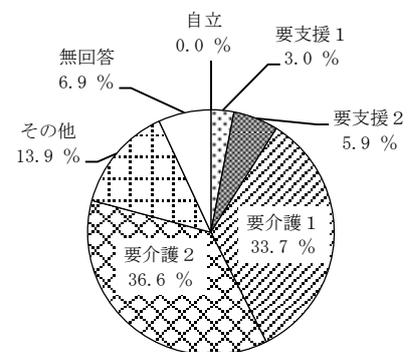
No	カテゴリ	n	%
1	夫または妻	36	35.6
2	子ども(家族)	44	43.6
3	ヘルパー	9	8.9
4	介護は必要ない	3	3.0
5	その他	4	4.0
	無回答	5	5.0
	全体	101	100.0



(6) 要介護度 (SA)

要介護度について、最も多いのは「要介護2」(36.6%)、次いで「要介護1」(33.7%)であった。「その他」は、「要介護3」13件、「要介護4」2件、「申請中」1件であった。

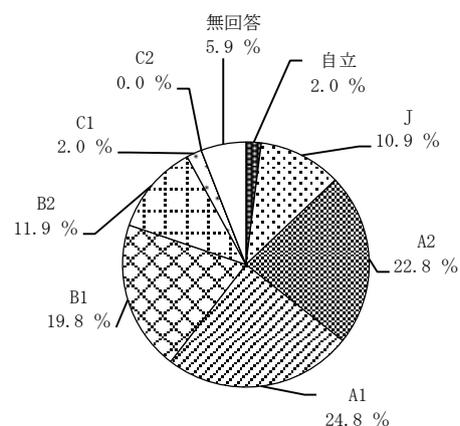
No	カテゴリ	n	%
1	自立	-	-
2	要支援1	3	3.0
3	要支援2	6	5.9
4	要介護1	34	33.7
5	要介護2	37	36.6
6	その他	14	13.9
	無回答	7	6.9
	全体	101	100.0



(7) 日常生活自立度(SA)

日常生活自立度について、最も多いのは「A1」(24.8%)、次いで「A2」(22.8%)であった。

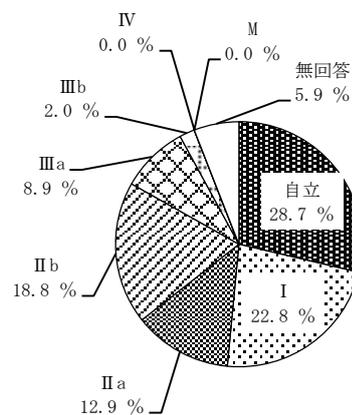
No	カテゴリ	n	%
1	自立	2	2.0
2	J	11	10.9
3	A2	23	22.8
4	A1	25	24.8
5	B1	20	19.8
6	B2	12	11.9
7	C1	2	2.0
8	C2	-	-
	無回答	6	5.9
	全体	101	100.0



(8) 認知症自立度(SA)

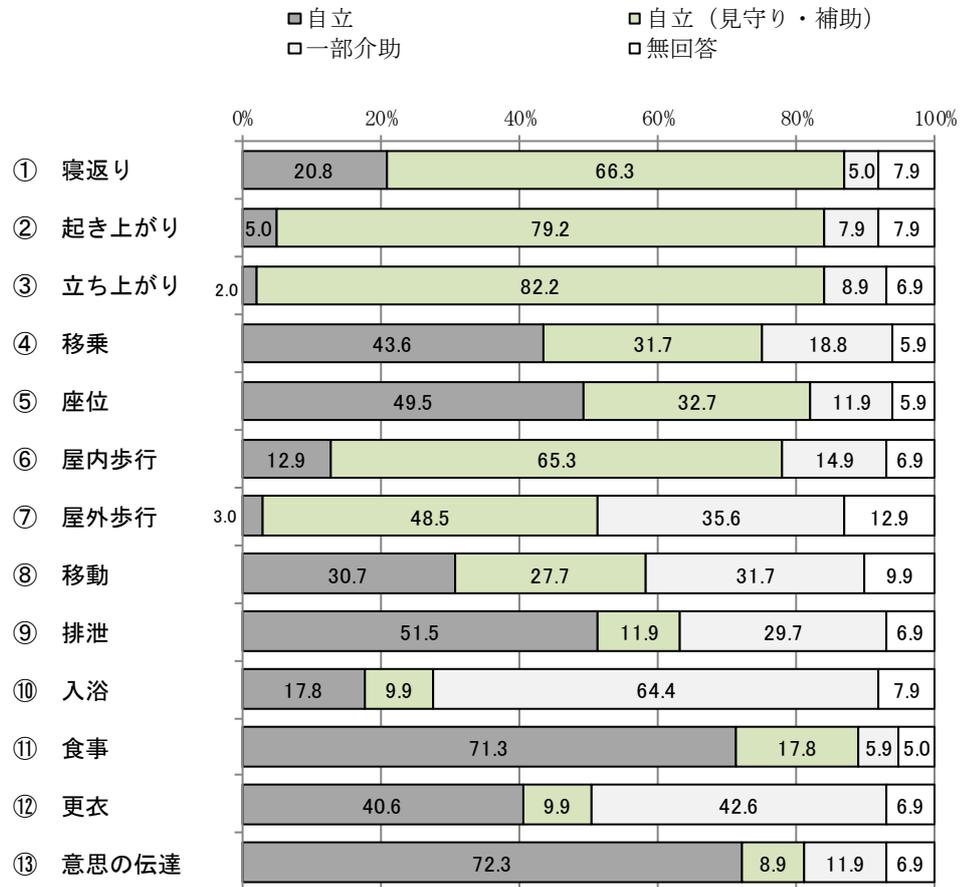
認知症自立度について、最も多いのは「自立」(28.7%)、次いで「I」(22.8%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	自立	29	28.7
2	I	23	22.8
3	II a	13	12.9
4	II b	19	18.8
5	III a	9	8.9
6	III b	2	2.0
7	IV	-	-
8	M	-	-
	無回答	6	5.9
	全体	101	100.0



(9) 利用者の状態(SA)

利用者の生活動作について、「一部介助」の割合が最も高いのは「入浴」(64.4%)、次いで「更衣」(42.6%)、「屋外歩行」(35.6%)であった。「自立」の割合が最も高いのは「意思の伝達」(72.3%)、次いで「食事」(71.3%)、「排泄」51.5%であった。



① 寝返り

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	21	20.8
2	何かにつかまればできる	67	66.3
3	一部介助	5	5.0
	無回答	8	7.9
	全体	101	100.0

② 起き上がり

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	5	5.0
2	何かにつかまればできる	80	79.2
3	一部介助	8	7.9
	無回答	8	7.9
	全体	101	100.0

③ 立ち上がり

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	2	2.0
2	何かにつかまればできる	83	82.2
3	一部介助	9	8.9
	無回答	7	6.9
	全体	101	100.0

④ 移乗

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	44	43.6
2	見守り等	32	31.7
3	一部介助	19	18.8
	無回答	6	5.9
	全体	101	100.0

## ⑤ 座位

No	カテゴリ	n	%
1	できる	50	49.5
2	自分の手で支えればできる	33	32.7
3	支えてもらえればできる	12	11.9
	無回答	6	5.9
	全体	101	100.0

## ⑦ 屋外歩行

No	カテゴリ	n	%
1	できる	3	3.0
2	自分の手で支えればできる	49	48.5
3	支えてもらえればできる	36	35.6
	無回答	13	12.9
	全体	101	100.0

## ⑨ 排泄

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	52	51.5
2	見守り等	12	11.9
3	一部介助	30	29.7
	無回答	7	6.9
	全体	101	100.0

## ⑪ 食事

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	72	71.3
2	見守り等	18	17.8
3	一部介助	6	5.9
	無回答	5	5.0
	全体	101	100.0

## ⑬ 意思の伝達

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	73	72.3
2	見守り等	9	8.9
3	一部介助	12	11.9
	無回答	7	6.9
	全体	101	100.0

## ⑥ 屋内歩行

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	13	12.9
2	何かにつかまればできる	66	65.3
3	一部介助	15	14.9
	無回答	7	6.9
	全体	101	100.0

## ⑧ 移動(車いすの使用を含む)

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	31	30.7
2	見守り等	28	27.7
3	一部介助	32	31.7
	無回答	10	9.9
	全体	101	100.0

## ⑩ 入浴

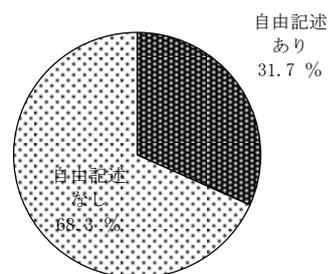
No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	18	17.8
2	見守り等	10	9.9
3	一部介助	65	64.4
	無回答	8	7.9
	全体	101	100.0

## ⑫ 更衣

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	41	40.6
2	見守り等	10	9.9
3	一部介助	43	42.6
	無回答	7	6.9
	全体	101	100.0

⑭ 視覚・聴覚(自由記述)

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	32	31.7
2	自由記述 なし	69	68.3
	全体	101	100.0



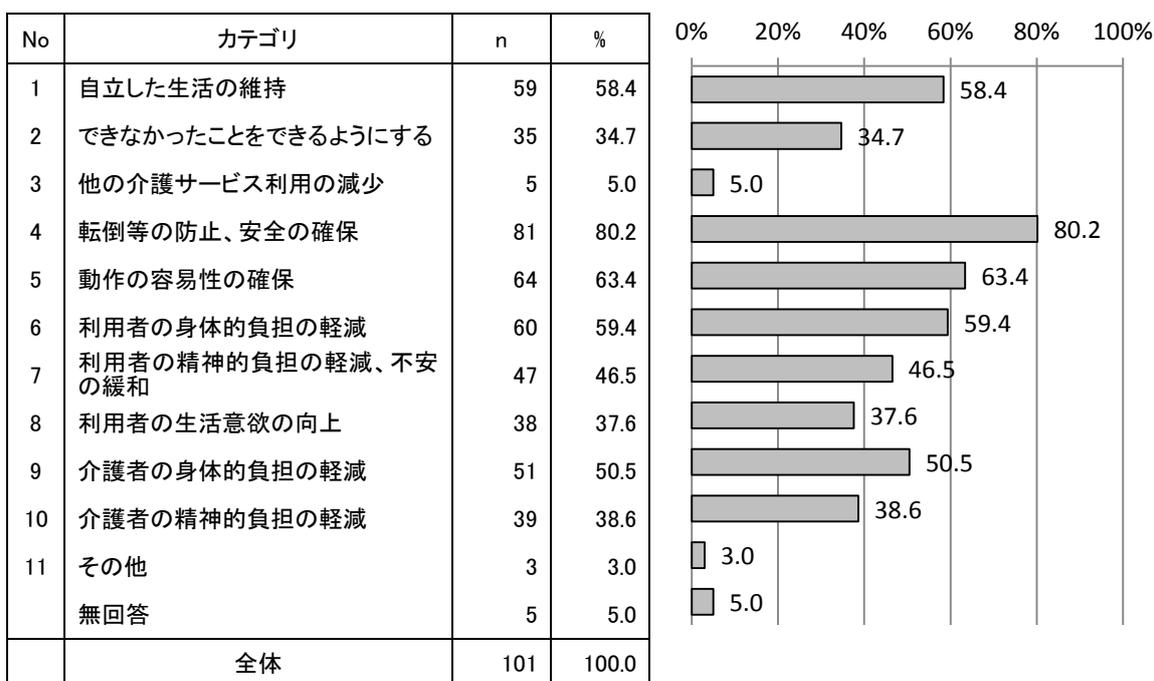
記述内容

- ・ 難聴 13 件
- ・ 補聴器 3 件
- ・ 糖尿病網膜症 1 件
- ・ 緑内障 2 件
- ・ 白内障 1 件
- ・ 視力低下 4 件

3. 福祉用具導入前・住宅改修前のアセスメント、目標設定、福祉用具導入・住宅改修プランなどについて伺います。

(10) 利用者本人・家族の要望について教えてください。(MA)

福祉用具導入もしくは住宅改修後の利用者本人・家族の評価コメントについて、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(80.2%)、「動作の容易性の確保」(63.4%)、「利用者の身体的負担の軽減」(59.4%)であった。



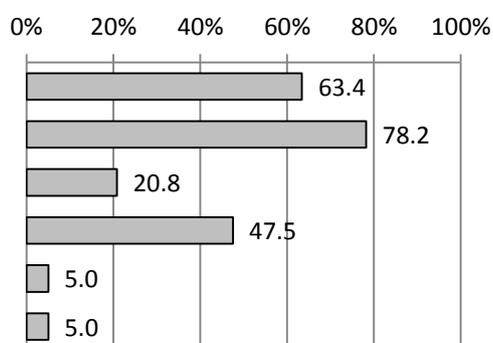
その他(自由記述)

- ・ 安全な外出
- ・ 介護保険導入の手がかり

(11) 福祉用具導入・住宅改修を検討する際に、特に留意したことはどのようなことですか。(MA)

福祉用具導入・住宅改修を検討する際に特に留意したことについて、最も多いのは「利用者・家族と面談して利用者の希望、心身の状況、及び住環境を調査」(78.2%)、次いで「利用者の自立支援につながる目標設定」(63.4%)、「専門的見地から利用者の状態像や意向等に適した福祉用具・住宅改修を選定」(47.5%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	利用者の自立支援につながる目標設定	64	63.4
2	利用者・家族と面談して利用者の希望、心身の状況、及び住環境を調査	79	78.2
3	ケアプランとの整合性の確保	21	20.8
4	専門的見地から利用者の状態像や意向等に適した福祉用具・住宅改修を選定	48	47.5
5	その他	5	5.0
	無回答	5	5.0
	全体	101	100.0



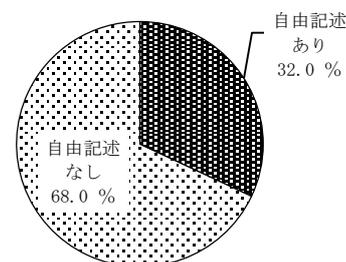
その他(自由記述)

- ・ 利用者家族(介護者)の身体的・精神的負担の軽減。
- ・ 介護者、同居者の介護負担
- ・ 退院前カンファレンスで、病院内でできている歩行器を使つての移動が、自宅で見守りがなくても安全にできることを第一に考えた。
- ・ 今まで出来ていた事を、退院後も変わらずできるようにして、意欲向上をもたせたい。
- ・ 昔からの生活を変えたり支援を受けることに拒否がある方に対しての無理のないアプローチを考えた。

(12) 上記 11 で選択した項目を実施した結果、問題となった点、あるいは工夫した点があれば、具体的に記述してください。(自由記述)

(11) 1.利用者の自立支援につながる目標設定

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	8	32.0
2	自由記述 なし	17	68.0
	全体	25	100.0



問題となった点

- ・ 老々世帯における在宅生活継続のための身体的精神的な負担軽減。

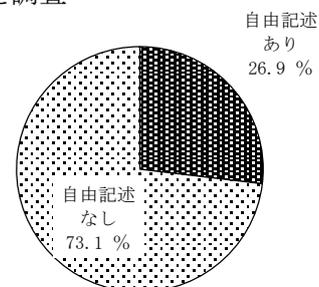
工夫した点

- ・ 転倒と自立支援に配慮した改修を心がけた。
- ・ 利用者が行っていたこれまでの生活の継続を心がけた。
- ・ 利用中の訪問リハビリのPTと一緒に考えた。

- ・ 進行性の難病であることから、徐々に適さないADL状態となることを見込んでの導入を考えた。しかし、介護が必要な状態でも、トイレで排泄をしたいという本人の気持ちを尊重し、時期に合わせた用具選定を展開した。
- ・ 認知症である為、どの程度実用性があるか判断に迷った。実際に、リハスタッフ等に動作の確認や指示の入り具合を確認してもらい、サービス導入につなげた。

(11) 2.利用者・家族と面談して利用者の希望、心身の状況、及び住環境を調査

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	7	26.9
2	自由記述 なし	19	73.1
	全体	26	100.0



問題となった点

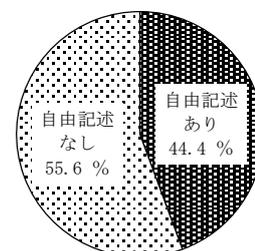
- ・ 本人の意向とサービス利用が合意点があるかどうか。
- ・ 家族は必要ないと言われたが、住改業者ケアマネから見て転倒の危険があると考えられる箇所が何箇所かあった。
- ・ 本人の意向が過剰なサービスを要求しており、自宅の環境では使えないと思われる用具を希望したため、対応に苦慮した。
- ・ 本人、家族の思いが異なる。主介ゴ者(嫁)の立場からすると手すり、ベッド等の導入できれば通所系サービスの利用が望まれたが、本人は必要と思わず、手すりの設置とベッドの導入もなかなかだった。

工夫した点

- ・ 本人の自尊心を傷つけないように注意し、今できることは継続してできるよう手すりを設置。福祉用具は導入しなかった。
- ・ 圧迫骨折後、不自由な体になったが、少しでも以前のような、生活が出来る様にご本人と話しながらの留意を行う。
- ・ 本人の自宅での動線(移動コース)を確認してつかまる所が必要な箇所の確認をおこなった。

(11) 3.ケアプランとの整合性の確保

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	4	44.4
2	自由記述 なし	5	55.6
	全体	9	100.0



問題となった点

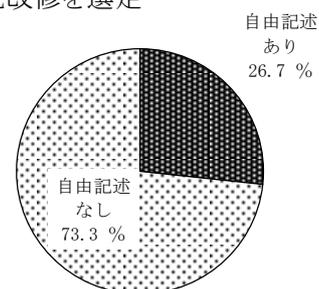
- ・ 電動車椅子の使用が本人に適切かどうか迷った。スロープから転落する恐れがあったため。
- ・ 本人持ちのベッドあり。ベッド柵取り付け困難にて、ベッドサイドに設置式手すりをレンタルする。今までの習慣が身につけているのか、どうしても、椅子を使用してしまう。

工夫した点

- ・ 福祉用具のモニタリング、見直しを行った。

(11) 4. 専門的見地から利用者の状態像や意向等に適した福祉用具・住宅改修を選定

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	4	26.7
2	自由記述 なし	11	73.3
	全体	15	100.0



問題となった点

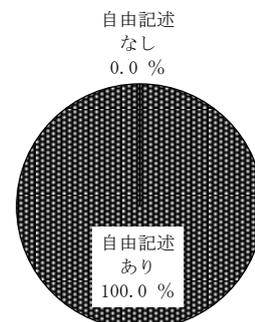
- ・ 以前住宅改修を行っており、20万円の限度額に適しており住改は利用できなかった。(以前…和式トイレを洋式トイレに変更)

工夫した点

- ・ リハビリテーション入院先MSW、OT、ST、参加の家屋調査を実施して、専門家の意見と実態について「自立して生活できる環境」を目指した。
- ・ 動線の安全性と利便性を考慮。膝が痛い対象の足の上がり具合いや今後ふみ台の高さの調整や状況にあわせて変更ができるようレンタルで対応した。
- ・ 家族の希望のみならず、自立支援することが介護負担の軽減につながることを伝え、専門的見地から、必要なプランを提案し住宅改修を行った。

(11) 5. その他

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	1	100.0
2	自由記述 なし	-	-
	全体	1	100.0



問題となった点

- ・ -

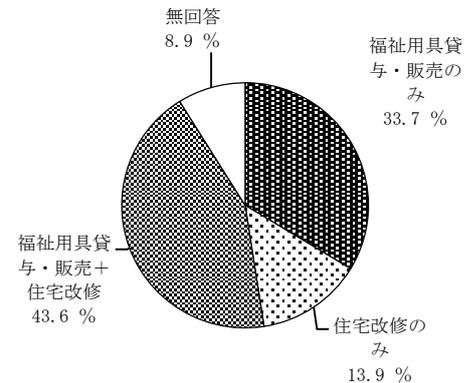
工夫した点

- ・ 起き上がり動作ができない事でトイレに間に合わず失禁が時折見られていた。排泄の失敗が介護者の精神的、身体的負担となっていた。介護者が介護鬱になりかけていたこともあり、早急に住宅改修、福祉用具(特殊寝台)の導入を行った。

(13) ケアプランの中でどのようなサービスを選択しましたか。(SA)

ケアマネジャーが選択したケアプランの中で、最もおおいのは「福祉用具貸与・販売＋住宅改修」(43.6%)、次いで「福祉用具貸与・販売のみ」(33.7%)、「住宅改修のみ」(13.9%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	福祉用具貸与・販売のみ	34	33.7
2	住宅改修のみ	14	13.9
3	福祉用具貸与・販売＋住宅改修	44	43.6
	無回答	9	8.9
	全体	101	100.0



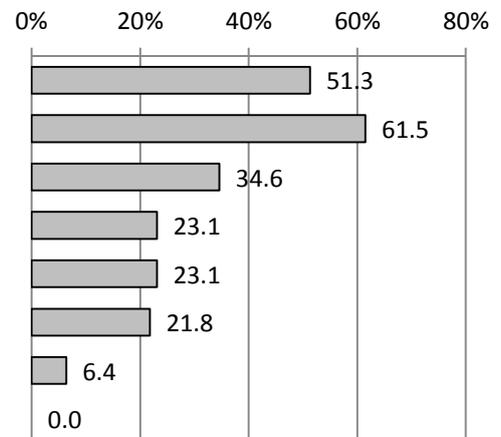
【福祉用具貸与・販売について】

(14) 福祉用具導入によって、改善しようとした高齢者の生活動作について教えてください。

①～⑦について該当する項目すべてに○をつけ、事例の具体的な動作の問題点について記載してください。(MA)

福祉用具導入によって改善しようとした高齢者の生活動作について、最も多いのは「移乗」(61.5%)、次いで「起居」(51.3%)、「屋内移動」(34.6%)であった。

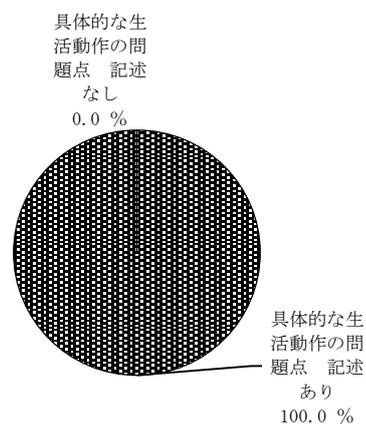
No	カテゴリ	n	%
1	起居	40	51.3
2	移乗	48	61.5
3	屋内移動	27	34.6
4	排泄	18	23.1
5	入浴	18	23.1
6	屋外移動	17	21.8
7	その他の活動	5	6.4
	無回答	-	-
	全体	78	100.0



福祉用具導入によって、改善しようとした高齢者の生活動作の問題点

(1) 起居

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点 記述 あり	40	100.0
2	具体的な生活動作の問題点 記述 なし	-	-
	全体	40	100.0

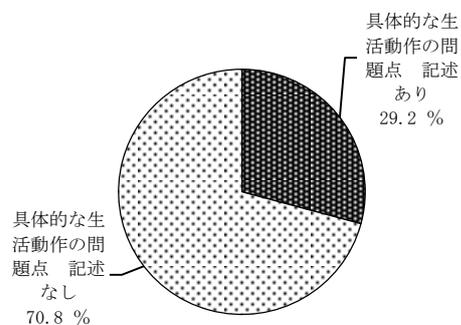


記述内容

- ・ 起き上がり 16 件
- ・ ベッドからの起き上がり 13 件
- ・ 布団からの起き上がり 7 件
- ・ 介護者の負担 2 件
- ・ 動作の自立 1 件

(2) 移乗

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	14	29.2
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	34	70.8
	全体	48	100.0

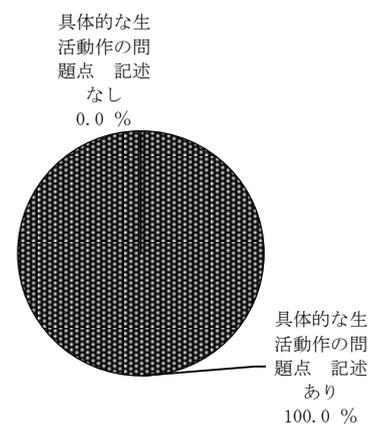


記述内容

- ・ 立ち座り 10 件
- ・ 転倒防止 5 件
- ・ 床からの立ち座り 3 件
- ・ 立位保持 2 件
- ・ 介護者の負担 2 件

### (3) 屋内移動

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	27	100.0
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	-	-
	全体	27	100.0

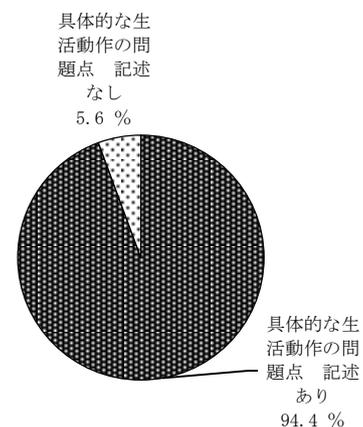


#### 記述内容

- ・ ふらつき・不安定歩行 24 件
- ・ 歩行困難 6 件
- ・ 転倒防止 5 件
- ・ 介護者の負担 4 件
- ・ 段差の昇降 3 件
- ・ 活動力の低下 1 件

### (4) 排泄

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	17	94.4
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	1	5.6
	全体	18	100.0

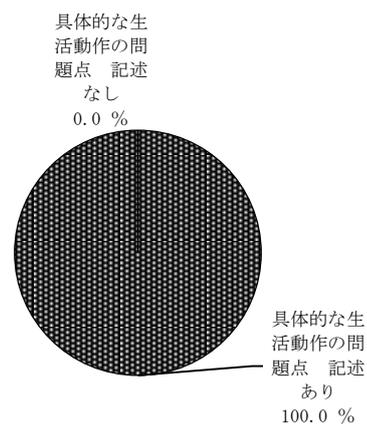


#### 記述内容

- ・ トイレへの移動 11 件
- ・ トイレの立ち座り・体勢保持 7 件
- ・ 介護者の負担 3 件
- ・ 着衣の上げ下ろし・方向転換 4 件
- ・ 段差のつまずき 2 件
- ・ 転倒防止 2 件

(5) 入浴

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	18	100.0
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	-	-
	全体	18	100.0

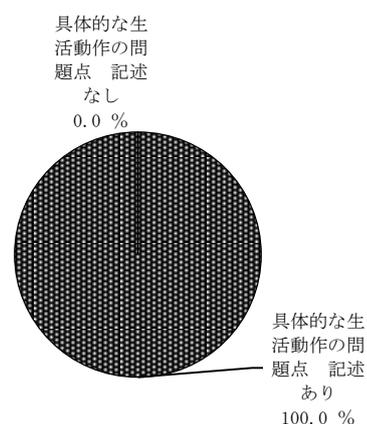


記述内容

- ・ 浴槽への出入・またぎ 7 件
- ・ 床・腰掛からの立ち座り 7 件
- ・ 転倒防止 6 件
- ・ 浴動作・姿勢保持 5 件
- ・ 介護者の負担 4 件
- ・ 段差によるつまずき・移動不安 1 件

(6) 屋外移動

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	17	100.0
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	-	-
	全体	17	100.0

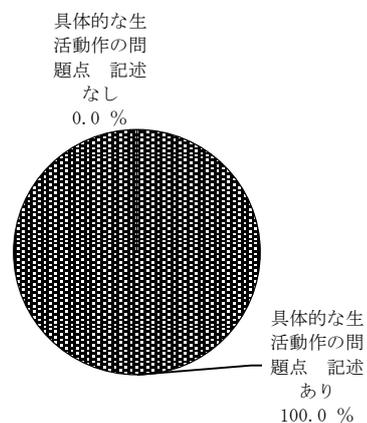


記述内容

- ・ 段差の昇降・転倒 8 件
- ・ 長距離移動 6 件
- ・ 不安定歩行・ふらつき 5 件
- ・ 歩行困難 4 件
- ・ 転倒防止 4 件
- ・ 介護者の負担 2 件
- ・ 介助が必要(車いす・見守り) 2 件
- ・ 電動車椅子の操作ミス 1 件

(7) その他の活動

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	5	100.0
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	-	-
	全体	5	100.0



記述内容

- ・ 家事 1 件
- ・ 更衣 1 件
- ・ 屈んで物を拾えない 1 件
- ・ 歩行器を使って物を持つとふらつく 1 件
- ・ 長時間座位 1 件
- ・ 外出が困難 1 件
- ・ 移動の疲労軽減 1 件
- ・ 活動範囲が低下 1 件
- ・ 体調によりできる動作が違う 1 件
- ・ 仕事ができない 1 件

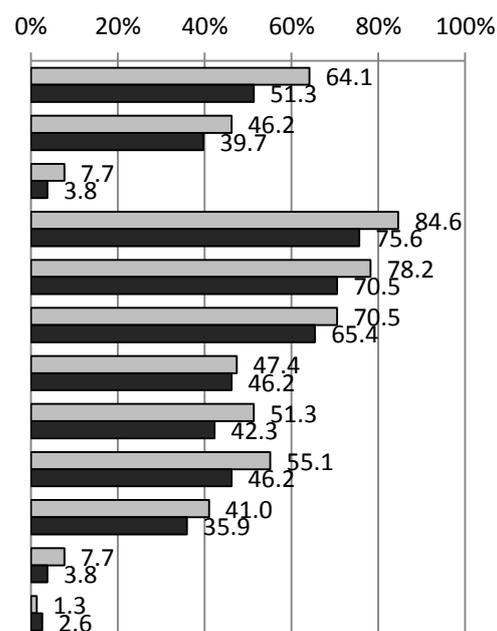
(15) 福祉用具導入前における目標設定について教えてください。(MA)

(16) 上記目標について、福祉用具導入後、達成した項目に○をつけてください。(MA)

福祉用具導入前における目標設定について、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(84.6%)、次いで「動作の容易性の確保」(78.2%)、「利用者の身体的負担の軽減」(70.5%)であった。

また、目標設定に対して、福祉用具導入後、達成した項目で最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(75.6%)、次いで「動作の容易性の確保」(70.5%)、「利用者の身体的負担の軽減」(65.4%)であった。

No	カテゴリ	目標設定	達成した項目	目標設定	達成した項目
		n	n	%	%
1	自立した生活の維持	50	40.0	64.1	51.3
2	できなかったことをできるようにする	36	31.0	46.2	39.7
3	他の介護サービス利用の減少	6	3.0	7.7	3.8
4	転倒等の防止、安全の確保	66	59.0	84.6	75.6
5	動作の容易性の確保	61	55.0	78.2	70.5
6	利用者の身体的負担の軽減	55	51.0	70.5	65.4
7	利用者の精神的負担の軽減、不安の緩和	37	36.0	47.4	46.2
8	利用者の生活意欲の向上	40	33.0	51.3	42.3
9	介護者の身体的負担の軽減	43	36.0	55.1	46.2
10	介護者の精神的負担の軽減	32	28.0	41.0	35.9
11	その他	6	3.0	7.7	3.8
	無回答	1	2.0	1.3	2.6
	全体	78	78.0	100.0	100.0



(15) その他(自由記述)

- ・ 福祉用具を使用することに慣れる
- ・ できていることを継続、オムツにしない
- ・ 他のサービスの導入目的

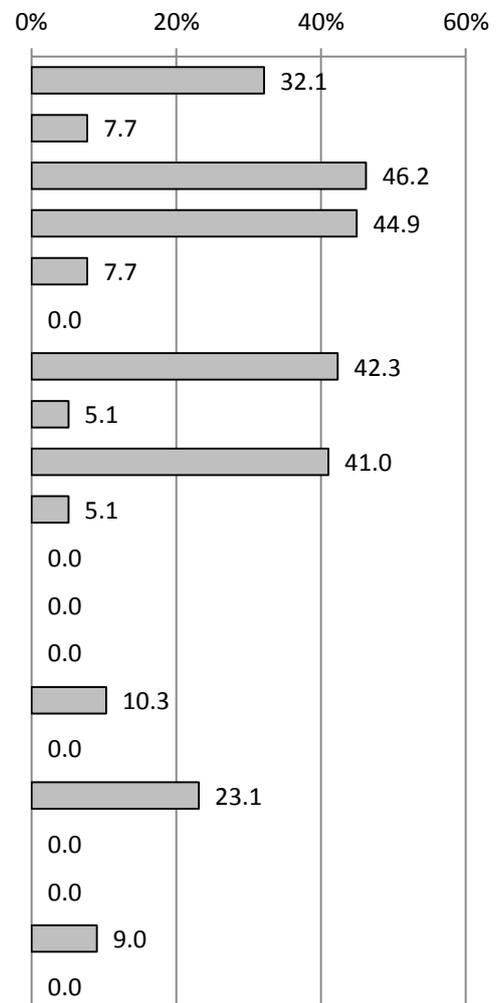
(16) その他(自由記述)

- ・ とまどいもあったが、福祉用具の使用に対応できた。
- ・ おためし利用をしたが、見本にかわるものを家族が製作され中止。

(17) 導入した福祉用具に○をつけてください。(MA)

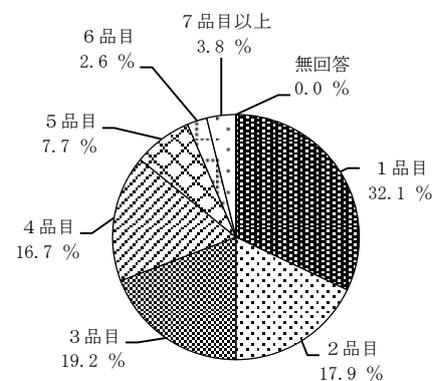
導入した福祉用具で最も多いのは、「特殊寝台」(46.2%)、「特殊寝台付属品」(44.9%)、「手すり」(42.3%)であった。品目数では「1品目」が最も多く32.1%、次いで「3品目」が19.2%、「2品目」が17.9%であった。「その他」は、「シャワーチェア」「ポータブルトイレ」「リリーチャー」「段昇降台つき手すり」であった。

No	カテゴリ	n	%
1	車いす	25	32.1
2	車いす付属品	6	7.7
3	特殊寝台	36	46.2
4	特殊寝台付属品	35	44.9
5	床ずれ防止用具	6	7.7
6	体位変換器	-	-
7	手すり	33	42.3
8	スロープ	4	5.1
9	歩行器	32	41.0
10	歩行補助つえ	4	5.1
11	認知症老人徘徊感知機器	-	-
12	移動用リフト(つり具の部分を除く)	-	-
13	自動排泄処理装置	-	-
14	腰掛便座	8	10.3
15	自動排泄処理装置の交換可能部品	-	-
16	入浴補助用具	18	23.1
17	簡易浴槽	-	-
18	移動用リフトのつり具部分	-	-
19	その他	7	9.0
	無回答	-	-
	全体	78	100.0



回答した品目数

No	カテゴリ	n	%
1	1品目	25	32.1
2	2品目	14	17.9
3	3品目	15	19.2
4	4品目	13	16.7
5	5品目	6	7.7
6	6品目	2	2.6
7	7品目以上	3	3.8
	無回答	-	-
	全体	78	100.0



(18) 福祉用具導入費について教えてください。おおよその金額で結構です。(実数)

導入した福祉用具の費用は、「福祉用具貸与」は平均 8,683 円/月、「特定福祉用具販売」は平均 10,477 円、「福祉用具販売(介護保険外)」は平均 919 円であった。

福祉用具貸与

合計	625,166
平均	8,682.9
分散(n-1)	86,909,978.54
標準偏差	9,322.55
最大値	36,000
最小値	0
無回答	6
全体	78

特定福祉用具販売

合計	754,325
平均	10,476.7
分散(n-1)	347,254,770.25
標準偏差	18,634.77
最大値	100,000
最小値	0
無回答	6
全体	78

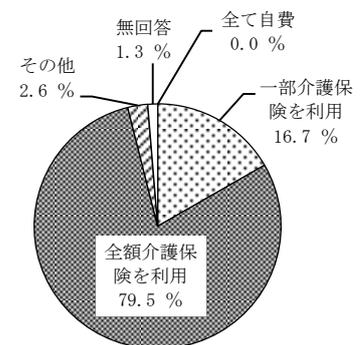
福祉用具販売(介護保険外)

合計	66,200
平均	919.4
分散(n-1)	13,795,455.25
標準偏差	3,714.22
最大値	20,000
最小値	0
無回答	6
全体	78

(19) 介護保険の利用について教えてください。(SA)

導入した福祉用具に関する介護保険の利用について、最も多いのは「全額介護保険を利用」(79.5%)、次いで「一部介護保険を利用」(16.7%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	全て自費	-	-
2	一部介護保険を利用	13	16.7
3	全額介護保険を利用	62	79.5
4	その他	2	2.6
	無回答	1	1.3
	全体	78	100.0



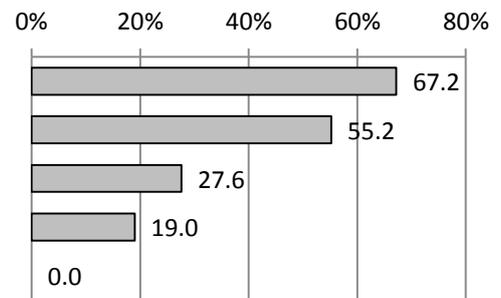
【住宅改修について】

(20) 住宅改修によって、改善しようとした高齢者の生活動作について教えてください。

(1)～(4)について該当する項目すべてに○をつけ、事例の具体的な動作の問題点について記載してください。(MA)

住宅改修によって改善しようとした高齢者の生活動作について、最も多いのは「排泄」(67.2%)、次いで「入浴」(55.2%)、「外出」(27.6%)であった。

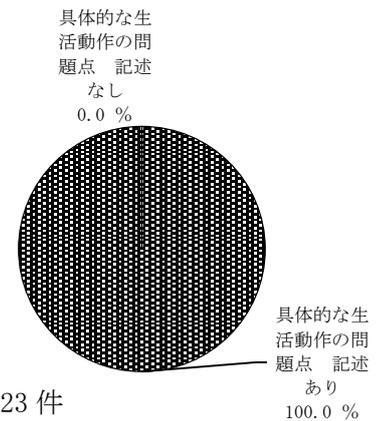
No	カテゴリ	n	%
1	排泄	39	67.2
2	入浴	32	55.2
3	外出	16	27.6
4	その他の活動	11	19.0
	無回答	-	-
	全体	58	100.0



住宅改修によって、改善しようとした高齢者の生活動作

(1) 排泄

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点 記述 あり	39	100.0
2	具体的な生活動作の問題点 記述 なし	-	-
	全体	39	100.0

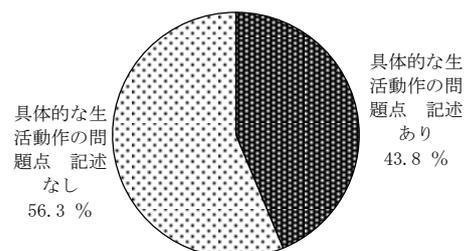


記述内容

- ・ トイレ内の動作(立ち座り、方向転換、立位保持、着衣の脱ぎ着) 23 件
- ・ トイレまでの移動 7 件
- ・ トイレまでもしくはトイレ出入口の段差によるつまづき 6 件
- ・ ドアの開閉 1 件

(2) 入浴

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点 記述 あり	14	43.8
2	具体的な生活動作の問題点 記述 なし	18	56.3
	全体	32	100.0

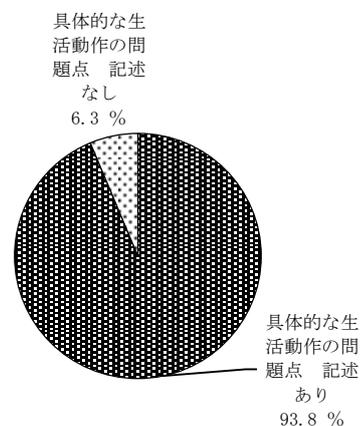


記述内容

- ・ 浴室入口の段差昇降・ふらつき 4 件
- ・ 浴室内の入浴動作 4 件
- ・ 浴槽への出入・またぎ 3 件
- ・ 脱衣室の動作・ふらつき 1 件
- ・ 浴室までの移動 1 件

(3) 外出

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点 記述 あり	15	93.8
2	具体的な生活動作の問題点 記述 なし	1	6.3
	全体	16	100.0

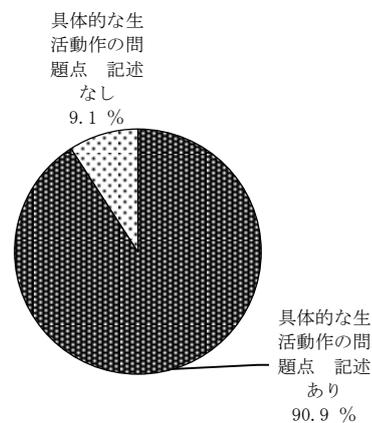


記述内容

- ・ 段差の昇降・ふらつき・転倒 9 件
- ・ 外階段の歩行 2 件
- ・ アプローチの傾斜によるふらつき・転倒 1 件
- ・ 転倒防止 1 件

(4) その他の活動

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点 記述 あり	10	90.9
2	具体的な生活動作の問題点 記述 なし	1	9.1
	全体	11	100.0



記述内容

- ・ 屋内移動 5 件
- ・ 段差昇降 2 件
- ・ 居室からトイレまでの移動 1 件
- ・ 階段昇降 1 件

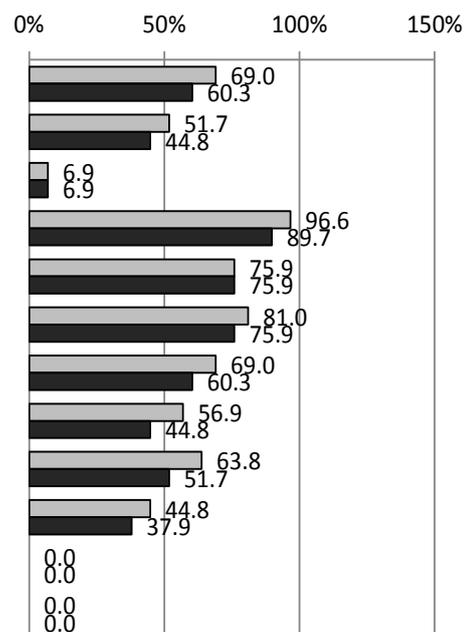
(21) 住宅改修前における目標設定について教えてください。(MA)

(22) 上記目標について、住宅改修後、達成した項目に○をつけてください。(MA)

住宅改修前における目標設定について、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(96.6%)、次いで「利用者の身体的負担の軽減」(81.0%)、「動作の容易性の確保」(75.9%)であった。

また、目標設定に対して住宅改修後、達成した項目で最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(89.7%)、次いで「動作の容易性の確保」および「利用者の身体的負担の軽減」(75.9%)であった。

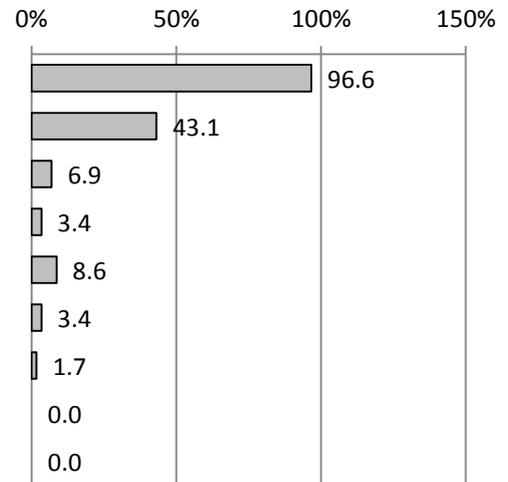
No	カテゴリ	目標設定	達成した項目	目標設定	達成した項目
		n	n	%	%
1	自立した生活の維持	40	35	69.0	60.3
2	できなかったことをできるようにする	30	26	51.7	44.8
3	他の介護サービス利用の減少	4	4	6.9	6.9
4	転倒等の防止、安全の確保	56	52	96.6	89.7
5	動作の容易性の確保	44	44	75.9	75.9
6	利用者の身体的負担の軽減	47	44	81.0	75.9
7	利用者の精神的負担の軽減、不安の緩和	40	35	69.0	60.3
8	利用者の生活意欲の向上	33	26	56.9	44.8
9	介護者の身体的負担の軽減	37	30	63.8	51.7
10	介護者の精神的負担の軽減	26	22	44.8	37.9
11	その他	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-
	全体	58	58	100.0	100.0



(23) 住宅改修項目について教えてください。(MA)

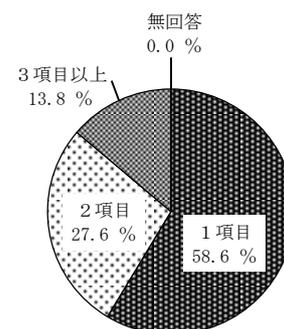
住宅改修項目で最も多いのは、「手すりの取付け」(96.6%)、「段差の解消」(43.1%)、「引き戸等への扉の取替え」(6.9%)であった。項目数では「1項目」が最も多く58.6%、次いで「2項目」が27.6%であった。「その他」は、「ろうかの設置」「ドアの取り外し」「浴槽の交換」であった。

No	カテゴリ	n	%
1	手すりの取付け	56	96.6
2	段差の解消	25	43.1
3	引き戸等への扉の取替え	4	6.9
4	便器の取替え	2	3.4
5	滑り防止等のための床材の変更	5	8.6
6	その他 1	2	3.4
7	その他 2	1	1.7
8	その他 3	-	-
	無回答	-	-
	全体	58	100.0



回答した項目数

No	カテゴリ	n	%
1	1項目	34	58.6
2	2項目	16	27.6
3	3項目以上	8	13.8
	無回答	-	-
	全体	58	100.0



(24) 住宅改修費について教えてください。おおよその金額で結構です。(実数)

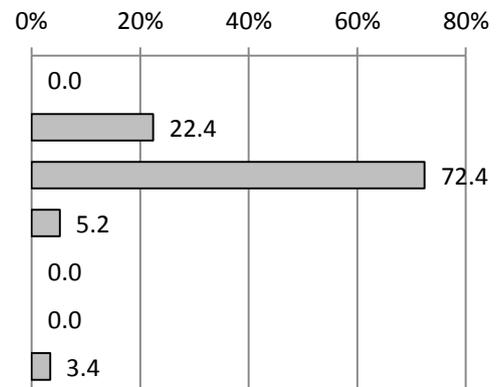
住宅改修費用は、平均約18万円であった。

合計	1,011
平均	18.1
分散(n-1)	376.76
標準偏差	19.41
最大値	80
最小値	1
無回答	2
全体	58

(25) 介護保険・助成金の利用について教えてください。(MA)

住宅改修に関する介護保険・助成金の利用について、最も多いのは「全額介護保険を利用」(72.4%)、次いで「一部介護保険を利用」(22.4%)であった。

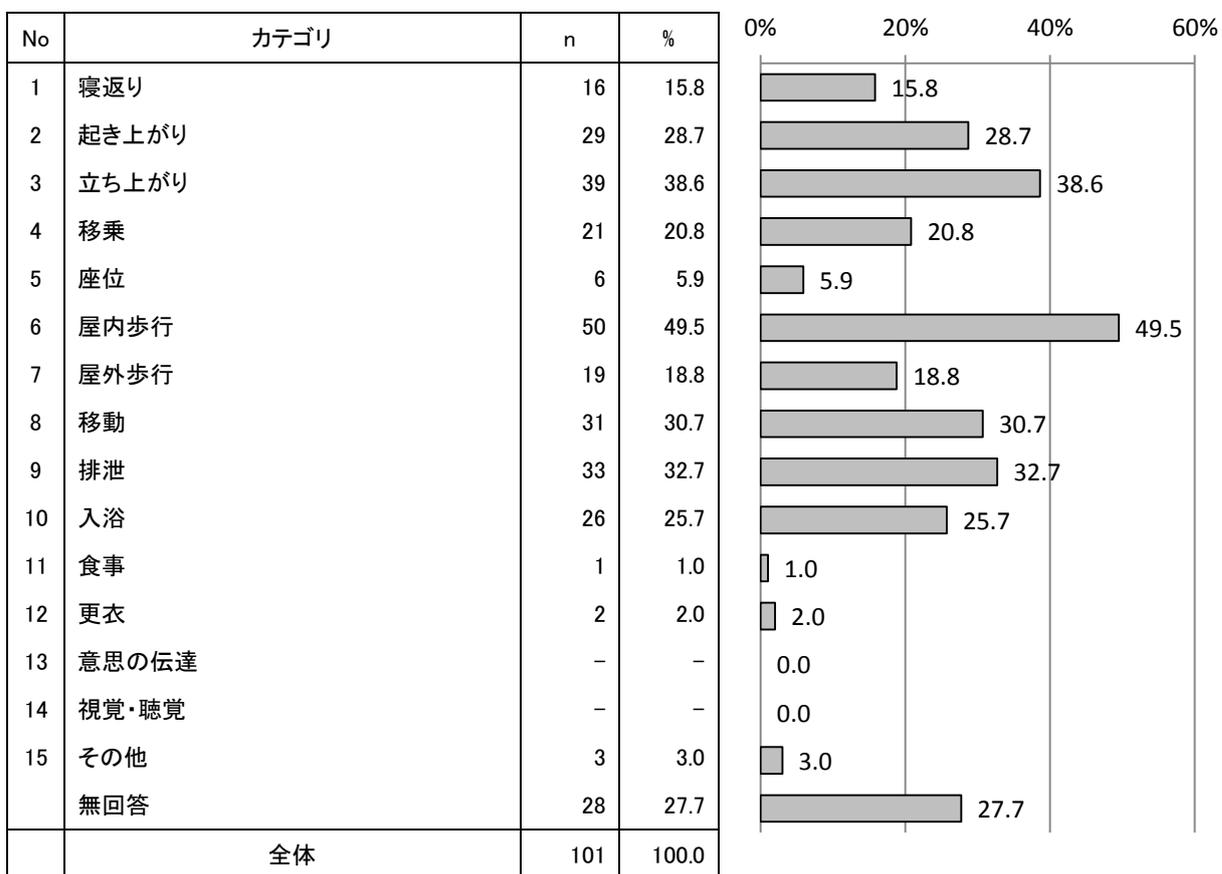
No	カテゴリ	n	%
1	全て自費	-	-
2	一部介護保険を利用	13	22.4
3	全額介護保険を利用	42	72.4
4	一部自治体の助成金を利用	3	5.2
5	全額自治体の助成金を利用	-	-
6	その他	-	-
	無回答	2	3.4
	全体	58	100.0



4. 福祉用具導入もしくは住宅改修後の状況確認などについて伺います。

(26) 福祉用具導入もしくは住宅改修後、3ページ設問9でお答え頂いた利用者の状態に変化(改善)があった項目を教えてください。(MA)

福祉用具導入もしくは住宅改修後の利用者の状態変化(改善)について、最も多いのは「屋内歩行」(49.5%)、次いで「立ち上がり」(38.6%)、「排泄」(32.7%)であった。



その他(自由記述)

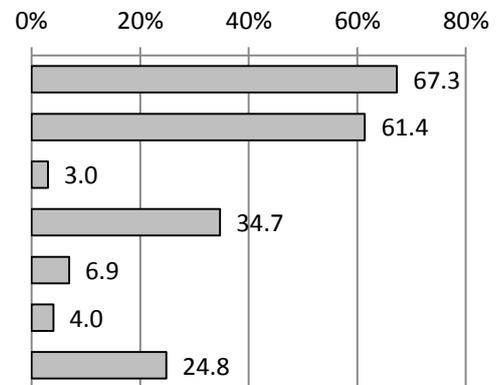
- ・ 近所への外出

(27) 福祉用具導入もしくは住宅改修後、ケアマネジャーによる状況確認は、どのように行いましたか。

(MA)

福祉用具導入もしくは住宅改修後の福祉用具専門相談員による状況確認について、最も多いのは「訪問による本人・家族からの聞き取り」(67.3%)、「訪問による本人の動作の試行確認」(61.4%)、福祉用具貸与事業者・住宅改修事業者からの聞き取り(報告)」(34.7%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	訪問による本人・家族からの聞き取り	68	67.3
2	訪問による本人の動作の試行確認	62	61.4
3	電話等による本人・家族からの聞き取り	3	3.0
4	福祉用具貸与事業者・住宅改修事業者からの聞き取り(報告)	35	34.7
5	訪問介護・訪問看護の担当者からの聞き取り(報告)	7	6.9
6	その他	4	4.0
	無回答	25	24.8
	全体	101	100.0



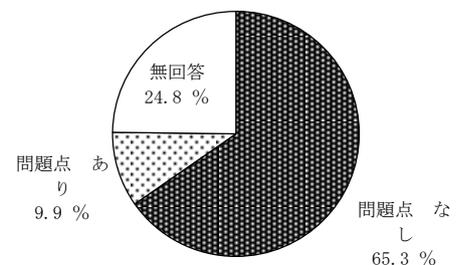
その他(自由記述)

- ・ OTからの情報提供

(28) 福祉用具導入もしくは住宅改修後、問題点はありましたか。(SA)

福祉用具導入もしくは住宅改修後の問題点は、「問題点なし」65.3%、「問題点あり」9.9%であった。

No	カテゴリ	n	%
1	問題点 なし	66	65.3
2	問題点 あり	10	9.9
	無回答	25	24.8
	全体	101	100.0



問題点

- ・ 今回は自治体の助成金も利用したため工事完了までに数ヶ月かかりました。その間病気が悪化し、工事が完成した頃にはADLが何段階も悪化しており、改修箇所において転倒があり、そのため利用者には改修したせいで転倒したという思いが残りました。改修には現時点でのADLの評価がされていますが、年齢も病気も進んでいく事を考えれば将来を予測した改修でなくては意味がありません。
- ・ その後3ヶ月経たないうちにADLが低下し、トイレでの排泄もすぐにできなくなった。
- ・ 本人の気持で、使用を拒否することがあった。今は、納得されている
- ・ 歩行器を導入するが、認知症の為、使用方法が、理解できず、引き上げる事となり、室内は手すりのない所は、這って移動している。
- ・ 認知症に伴い、痛みを感じない場合は、入浴補助用具が活用できていない。

- ・ 住宅構造上、手がつけられない部分もある。

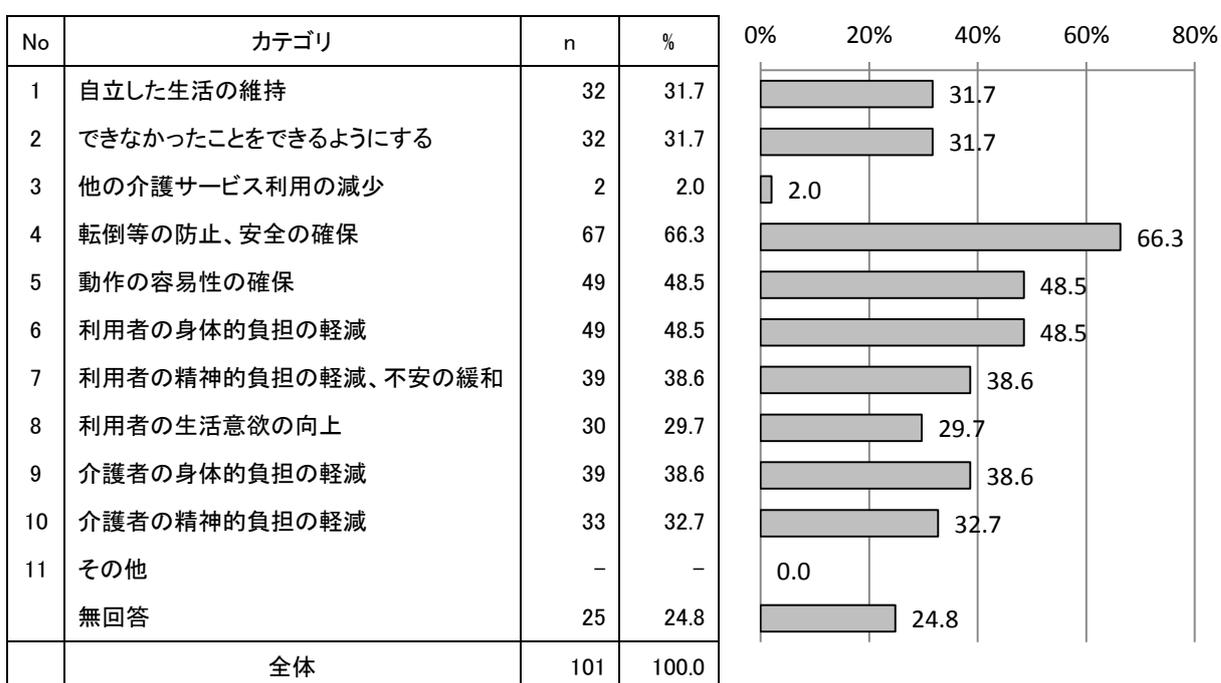
問題点ありの場合の対処法

- ・ 手すりの位置の変更。用具の担当者と訪門確認し、取りつけ直す。

(29) 福祉用具導入もしくは住宅改修後の利用者本人・家族の評価コメントについて教えてください。

(MA)

福祉用具導入もしくは住宅改修後の利用者本人・家族の評価コメントについて、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(66.3%)、次いで「動作の容易性の確保」および「利用者の身体的負担の軽減」(48.5%)であった。



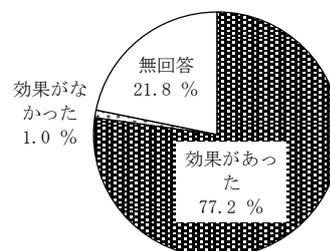
5. 福祉用具導入もしくは住宅改修後の支援方法について伺います。

(30) 本事例で自立支援の効果はありましたか。その要因として考えられることをお書きください。

自立支援の効果について、「効果があった」は 77.2%、「効果がなかった」は 1.0%であった。

(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	効果があった	78	77.2
2	効果がなかった	1	1.0
	無回答	22	21.8
	全体	101	100.0



効果があった要因として考えられること

① 福祉用具導入や住宅改修により、動作が楽になり、自分できるようになった

(手すり)

- ・ ベッドの高さ調節と手すり設置により起居、移乗動作を自力で行うことができた。
- ・ トイレ内に手摺りを付けた事で、ズボンの上げ下げが可能となり、トイレ返は自分で歩いて行く事が出来る様になった。外出も導線変更して可能
- ・ 敷居がなくなり、トイレと廊下に手すりがついたのでトイレまで安全に移動でき、トイレの排泄も自立。トイレ、玄関まで、歩行器をつかえば安全移動できる。夜排泄に起きるのがベットなので、時間短縮できる。
- ・ 手すりにつかまり移動する事が出来る様になった。
- ・ 杖を使用ではないため、手すりを使用で、自分で歩いて移動していることが、本人の喜びになった。その動作が楽になった。用具導入は本人の自尊心を傷つけるためできなかった。
- ・ 手すりをつける事で、手すり伝えに歩行してくれるようになった。玄関も見守り程度で出入りが出来るようになり、トイレへ行く際の転倒のリスクも軽減し、家人も安心されていた。
- ・ 立位で用を足したい本人の希望で手すりを導入したことで安定した立位で排泄ができるようになった。
- ・ 座面高のシャワーチェアを使用することで、立ち座り動作が、安全かつ安楽にできるようになった。玄関、トイレ、浴室、脱衣場の手すりを持って移動することで転倒防止につながっている。
- ・ 要所の手摺り設置(改修、レンタル)を行う事で、現在まで再転倒なく、屋内外ともに自由に行き来する事ができている。

(歩行器)

- ・ 歩行器がある事により、移動する事が可能である。

(その他)

- ・ 起居動作、移動ともに自立可能となった。
- ・ トイレまで家族の介助なしに歩行し、自立した排泄動作が行えている。
- ・ 排泄動作が自立し、直接介助が不要になった。
- ・ 自分のペースで屋内を動けるようになった。

- ・ 動作の容易性が確保されることで、活動性が向上し、自分で行える動作が増え、自立支援につながったと思われる。
  - ・ 用具の導入により、本人が自分で動作することを継続できている。
  - ・ 安全に階段昇降ができ本人の活動性が上がった。
  - ・ 再び、2階の寝室の使用が可能となった
  - ・ 外出がしやすくなった。
  - ・ 外出回数が増えた。以前行っていた散歩や庭の草むしりができるようになった。
- ② 福祉用具導入や住宅改修により意欲的になった
- ・ 介助者への依存度が下がった。利用者本人ができる事が増え気持ちが前向きになった。
  - ・ 家の中での行動がお一人でできることで生活に自信をもてるようになり散歩に出たり、活動的になった。妻も退院時、不安だったが、自分でできることが多く住改に感謝している。
  - ・ 歩行時、ふらつきが大きく、転倒の不安もあって、はって移動する事も少なくなかったが、手すりの設置を行った事で「歩行」での移動ができ少なからず、下肢を動かす状況にも至った。車いす貸与で、外出しようという意欲に連がった。
  - ・ 日常生活の自立ができた。福祉用具貸与と住宅改修をすることで、家族に頼らずできることは自分で行なう。意欲も向上した。
  - ・ 日中は1人で過ごされる事が多く、歩行状態に不安があり自宅内であっても同じ場所に居て動く事が減っていた。住改や福祉用具をレンタルする事で、不安の軽減となり活動量が増加した。
  - ・ 福祉用具により、外出が容易になり、外出機会も増えた。住改により、身体に負担なく、トイレまでの移動や、トイレ内での移乗や排泄が楽になる。
  - ・ 退院後の不安定な時期(心身ともに)に、安心と安全をもたらせ、意欲の向上につながった。
  - ・ 自分で動ける事が自信となり、生活意欲がうまれた。家族の負担も少なくなり、外出の機会もふえた
  - ・ 趣味であった活動を短時間でも行うことができ意欲向上になっている。(ベットから起きて書斎への移動が手すり設置にて可能になった)
  - ・ 歩行での移動に自信を持つことができた。
- ③ 動作の容易性や転倒予防により安全確保や精神的負担の軽減につながった
- ・ 本人の不安軽減につながった
  - ・ 歩行に自信がつき、転倒に対する不安要素が下がったため。
  - ・ 自分で動けるということがスムーズにいき、1人暮らしの不安が軽減される。
  - ・ 日常生活動作が安全にできるようになり独居でも安心して生活できるようになった。
  - ・ 動作が容易にでき、利用者の身体的負担が軽減できた。
  - ・ 嫁に対する遠慮があったが、自分でできることでご本人の精神的負担が減ったのと、自立した生活に結びついた。早期の導入で操作等に早く対応できるようになった。
- ④ 福祉用具導入や住宅改修により、介護負担が軽減した
- ・ 認知症あり、歩行器の利用の仕方に不安があったが、本人も歩行状態に不安があった為、スムーズ

に利用ができた。家族も安心し夜間の心配事が軽減したと言って下さった。

- ・ 失禁が少なくなった。外トイレに行くまでに時間がかかり、失禁し、汚染した下着をかくしていたが、0ではないが減った。介護者の介護負担の軽減した。
- ・ ポータブルトイレを導入したことで、夜間家族が何度も起きて介護することがなくなった。

⑤ 状況確認・他職種連携

- ・ 福祉用具専門員が本人の動き要望をきき試しながら選定してくれたからと思う。

自立支援の効果がなかった要因として考えられること

- ・ 改修のスピードが体調悪化に追いつけなかった。

(31) 本事例で、福祉用具導入もしくは住宅改修に関わった人はどなたですか。(関わった人すべてに○を付けてください。そのうち、主担当者1人に◎を付けてください)。

福祉用具導入もしくは住宅改修に関わった人について、最も多いのは「ケアマネジャー」(77.2%)、次いで「福祉用具専門相談員」(63.4%)、「建築施工者」(29.7%)であった。「その他」の関与者には、「自治体の調査・指導員」、「通所介護」、「家族」などがあつた。

主担当は、「ケアマネジャー」が最も多く11.9%、次いで「福祉用具専門相談員」7.9%であった。

関与した職種数は、「2 職種」が最も多く32.7%、次いで「3 職種」26.7%であった。

関わった人(MA)

No	カテゴリ	n	%
1	ケアマネジャー	78	77.2
2	福祉用具専門相談員	64	63.4
3	建築士	13	12.9
4	建築施工者	30	29.7
5	理学療法士・作業療法士	19	18.8
6	その他	13	12.9
	無回答	22	21.8
	全体	101	100.0

主担当者(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	ケアマネジャー	12	11.9
2	福祉用具専門相談員	8	7.9
3	建築士	1	1.0
4	建築施工者	-	-
5	理学療法士・作業療法士	1	1.0
6	その他	1	1.0
	無回答	78	77.2
	全体	101	100.0

主担当を含む関わった職種の数

No	カテゴリ	n	%
1	1 職種	3	3.0
2	2 職種	33	32.7
3	3 職種	27	26.7
4	4 職種以上	16	15.8
	無回答	22	21.8
	全体	101	100.0

(32) 本事例を通して、見つかった課題があれば教えてください。(自由記述)

① 状態変化に伴う迅速な対応

- ・ ADLの低下に伴い、福祉用具レンタルは激しく変更していった。その都度、訪問しながら確認していったつもりであるが、それでも追いつかない状況であった。
- ・ 現地調査を自治体関係者(指導員、OT、大工)が訪問した際には跨っていた浴槽の深さ(高さ)が、完成した時点では跨げていませんでした。そのため跨ぎの所で転倒されて半身マヒになってしまいました。せっかく高額の助成を受けながら利用者には住改をしなかった方が良かったという思いが残りました。もっと早くもっとスピーディに工事ができるシステムにして欲しいです。

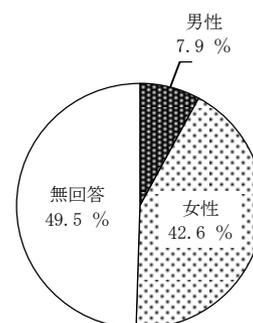
② 生活全体を通した支援

- ・ 生活全体を通しての支援をもっと考えれば良かった。利用者の困っている一部分のみへの対応だった。PT・OT等の専門職の助言を得て、生活全体を見た方が、自立支援が図れたと思う。
  - ・ 食事や排泄、入浴以外の日中の活動目標を本人と一緒に設定し、生活の質を高めて上げること。
- ③ 認知症の方への対応
- ・ 認知症の方への福祉用具導入について、使用方法が理解できない事で、危険性が増す。
  - ・ 認知症の方の、入院中の状態と、在宅復帰後の状態を判断していく事が難しい。専門科(リハスタッフ)に動作や指示の入り具合を評価してもらった後に福祉用具販売を決定したが、継続して実用できなかった。
- ④ 過剰なサービス導入
- ・ 退院時のカンファレンスのみであると転倒防止の観点や本人の不安な気持ちからサービスを過剰にしてしまうおそれが大きい高齢者の方は、自宅にもどるとなれた環境でそれなりに動けるため、不必要になる場合が多いこと。
  - ・ 家族が先に建築施工者と相談していたため、不用な箇所にも手すり設置の希望(案)などがあり、助言、提案を受け入れてもらうのに時間を要した。家族はなんでもかんでも手すりをたくさんつけばいいと思っていた。
- ⑤ その他
- ・ 疾病前に行っていた生活を再び行うことで生活意欲が大きく向上した。
  - ・ 訪問者が少く閉鎖的な家は、住改を行うことにより生活の質が向上したことを実感してもらえれば、本人との関係が築かれ、その後の訪問ができるようになる。
  - ・ 歩行器を利用するにあたり、恥ずかしいと言う思いがあり、外での利用ができなかった。(私にはまだこんなものは必要ないという思いも強くあった為)。

※ 回答者属性

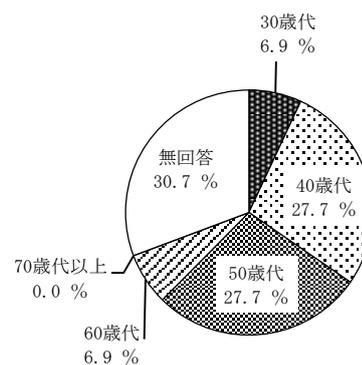
(1) 性別(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	男性	8	7.9
2	女性	43	42.6
	無回答	50	49.5
	全体	101	100.0



(2) 年齢(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	30 歳代	7	6.9
2	40 歳代	28	27.7
3	50 歳代	28	27.7
4	60 歳代	7	6.9
5	70 歳代以上	-	-
	無回答	31	30.7
	全体	101	100.0



(3) ケアマネジャーの経験年数(実数)

合計	534
平均	8.1
分散(n-1)	16.54
標準偏差	4.07
最大値	17
最小値	1
無回答	35
全体	101

(4) 基礎資格(自由記述)

- ・ 介護福祉士 17 件
- ・ 看護師・准看護師 6 件
- ・ ヘルパー2級 2 件
- ・ 社会福祉主事 1 件
- ・ 歯科衛生士 1 件

(5) 所持資格(MA)

No	カテゴリ	n	%
1	主任介護支援専門員	34	33.7
2	福祉用具専門相談員	3	3.0
3	福祉用具プランナー	3	3.0
4	福祉住環境コーディネーター	11	10.9
5	増改築相談員	-	-
6	建築士	-	-
7	理学療法士	-	-
8	作業療法士	-	-
9	その他	7	6.9
	無回答	56	55.4
	全体	101	100.0

